

守 破 離

旧雨今雨 ～青年部活動を通じて友情の輪を広げよう～



Facebook

山本部長 挨拶

平素より皆様にはあたたかいご支援とご指導を賜り、心から感謝いたします。

このたび、富山青年部は創立から60年の節目を迎えることとなりました。富山青年部では60周年記念行事として、去る11月3日に富山能楽堂において記念茶会と、特別企画として越中瀬戸焼のかなくれ会による作品展示会を同時開催いたしました。ご来場いただいたお客様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年を振り返ってみますと、開催した行事の回数はコロナ禍以前に比べても多かったと思います。その理由のひとつとして、お茶に触れたことのない一般の方に向けて、気軽にお茶を体験していただく新たな取り組みを始めたことが挙げられます。毎年3月から月に1回、市民プラザ前の大手モールで開催される越中大手市場において、5月、7月、8月、9月、11月に呈茶のブースを出店いたしました。この呈茶ブースでは、会員がお茶を点てて提供するメニューのほかに、お客様ご自身でお茶を点てることのできる体験型のメニューもご用意しました。来店されたお客様の約半数は体験型のメニューを選択され、小さなお子様からご年配の方まで、幅広い年齢層の方が楽しそうにお茶を点てて、笑顔でお茶を召し上がっていたのが印象的でした。楽しい思い出とともに、またお茶を飲みたいとお客様に思っただけであれば幸いです。来年も継続的に出店し、多くのお客様がお茶に触れられる機会をつくっていきたいと思います。

ところで、60周年記念茶会で配布した記念誌を作成するために、青年部発足当時の資料などを見返しておりましたが、60年という時間の経過に伴って、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく変化したと感じました。60年前の発足当時と比べると、今の社会はインターネットやスマートフォンなどのICT技術の普及により、急速にデジタル化が進みました。Web会議やVR技術など、子どもの頃には映画やマンガの世界のものだった技術が現実のものとなりました。青年部の役員会などの会議も、実際に参集して開催するより時間と場所の制約が少ないことから、Web会議を活用しています。

デジタル化によりどんどん便利な社会となる一方で、実際に臨場することでしか体感できない場の雰囲気や空気感といったアナログな体験も大切にしたいものです。最近は大勢の人が集まるお茶会が開催できるようになり、主客で同じ空間を共有するお茶本来の楽しさを改めて実感しているところです。どんなにテクノロジーが進歩しても、お茶を通して培われる繊細な動作や心の機微は、機械やアルゴリズムでは代替できない人間の特性であり、お茶は日本人の持つ感性や心といった日本人らしさを象徴する文化として、その価値が改めて見直されることになると思います。今後ますますライフスタイルの多様化が予想される未来においても、お茶が日本人のアイデンティティとなる感性や心を、これからも守り、伝え続けていくことになると思います。

こうしたお茶の魅力をより多くの方に知っていただけるよう、これからも精力的に活動してまいりたいと考えております。皆様には今後ともご指導ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくご厚意申し上げます。



富山青年部部長 山本 哲弘

2023年度活動報告

2月26日：令和5年度定期総会

令和5年度の定期総会・初茶会は令和元年度以来、4年ぶりに対面で開催することができました。定期総会では、令和4年度の行事報告及び収支決算報告並びに令和5年度の行事計画案及び収支予算案の議題について承認をいただきました。



定期総会後に開催した初茶会では、薄茶席を設けさせていただき、親支部から5名の先生方にもお越しいただきました。床に坐忘斎御家元お筆の【寿山青不老】を掛け、お花は梅と御代の栄を生け、これまでにご卒業された先輩方から頂いた茶杓やお茶碗などのお道具でお茶を差し上げました。

今年5月から新型コロナウイルス感染症は5類に移行することが決まり、最近の感染状況も落ち着いてきたため、ようやくコロナ禍が収束してきたと感ぜられるようになりました。この数年の定期総会は、令和2年度が書面決議、令和3年度と令和4年度がオンラインでの開催となり、この間、初茶会は中止しておりましたので、定期総会と初茶会を対面で開催できたのは4年ぶりのことでした。

6月24日：サンフォルテフェスティバル



6月24日(土)から7月22日(日)まで開催されたサンフォルテフェスティバルにおいて、6月24日(土)に茶道体験のワークショップを実施しました。

茶道体験では、無料でお茶とお菓子をお出しして、来場者ご自身でお茶を点てていただき、召し上がっていただきました。会場には、桔梗とヤハズススキをあしらい、お茶碗、棗、茶杓とお菓子を半月盆にセットし、来場者の方には棗から抹茶をお茶碗に入れるところから体験していただきました。お茶の経験のない方には、茶筌を振るのが難しそうでしたが、楽しそうにお茶を点てて、ご自身で点てたお茶を笑顔で味わっておられました。

なかなかお茶に触れる機会がない方にも気軽にお茶を体験していただくことで、普段の生活の中にお茶を取り入れるきっかけとしていただければ幸いです。

7月23日、9月10日：作陶体験

11月3日に開催予定の富山青年部60周年記念茶会において、会員で作成した茶碗を数茶碗として使用することを計画しており、必要数を揃えるために計2回の作陶体験を開催しました。越中瀬戸焼千寿窯の吉野香岳先生のご指導のもと、第1回は令和5年7月23日(日)、第2回は令和5年9月10日(日)に実施しました。

作陶は手捻りの手法で行い、午前中は作成したい茶碗の形に粘土を成形しました。午後から乾燥させておいた作品を慎重に少しずつ削りながら、各自が思い描いた形に近づけていく作業を行いました。10月に登り窯で作品を焼成していただくのも今回の作陶体験での大きな特徴です。

今回の作陶体験の作品は、60周年記念茶会で数茶碗として使用するため、ある程度の数が必要となります。第1回は8名の会員と2名の会員のお子さんにご参加いただき、第2回は5名の会員と1名の卒業会員と1名の会員のお子さんにご参加いただきました。

60周年記念茶会でお披露目するという目的があることから、心に思い描いた形に仕上げるため、みなさん作品作りに集中していました。無心で粘土を形成する作業をしていると余計な思考が排除されてとてもリラックスできるため、参加者からは毎月、作陶したいという声もありました。作陶体験は自分の作品を焼いて残すことができるだけでなく、こうした副次的な効果があるため、参加者からは毎回、好評のお声をいただいている行事です。

そして、第1回及び第2回の昼食は、吉野香岳先生のお母様が手打ちされた蕎麦をいただきました。蕎麦の香が立って、細く均等に揃えられた太さの蕎麦は、喉越しがとても心地よく、大変美味しくいただきました。大盛りだったにもかかわらず、お替わりしている会員が何人もいました。いずれの日も、心もお腹も大満足の1日となりました。



11月3日：富山青年部設立60周年記念茶会



富山青年部は創立から60年の節目を迎え、令和5年11月3日(金)に富山能楽堂において60周年記念茶会を開催しました。茶会は薄茶席で、床には坐忘齋御家元お筆の「寿山青不老」、もう一つの床には鵬雲齋大宗匠お筆の「一碗以平和」を掛け、お花は壇香梅、白玉、西王母を生けました。お菓子は末富のきんとんで、銘は「錦秋」。ご来場いただいたお客様には、60周年の記念誌とお土産をお渡ししました。

また、特別企画として、地元富山の窯元である越中瀬戸焼かなくれ会の作品展示会も同時開催し、かなくれ会の作家7名の作品が一堂に会しました。お客様には、茶席に入るまでの待ち時間や茶席の後に、作品をゆっくりとご覧になっていただき、かなくれ会の方たちとの交流を深めていただきました。

この日は秋晴れの好天に恵まれ、多くのお客様にご来場いただきました。富山青年部ではお茶に触れたことのない方にもお茶を知っていただく活動に取り組んでおり、そのご縁を祈念して茶会のテーマは「友」とし、これまでのご縁が由来となったお道具や「友」にちなんだお道具で茶席を設えました。また、古来より炉開きの際に揃えると縁起が良いとされる織部、伊部、瓢の「三部」を揃えたほか、60周年ということで還暦(華甲)にちなみ蟹があしらわれたお道具を取り入れるなどおめでたい趣向とし、60周年記念に相応しいお席となったのではないかと思います。



5月28日、7月29日、8月26日、9月24日、11月26日

まちなか*マーケット越中大手市場



毎月1回開催される越中大手市場に今年度より出店しました。5月は富山市の社会実験であるトランジットモールの回です。

トランジットモールとは車両の通行を制限し、歩行者と路面電車のみが通行できる歩行者空間をつくり、まちのにぎわいをつくりだす取り組みです。大手モールの通り沿いに58のブースが並び、天気も晴れて、多くの方が越中大手市場に足を運びました。

7月の出店では冷たい薄茶と水まんじゅうをご用意し、8月の出店では冷たい薄茶と冷たいイチゴぜんざいをご用意しました。7月と8月は夕方から夜にかけて出店するナイトマルシェで、天気もよく晴れて、日中は気温が35℃を超えました。そのため、日が傾いて日差しが和らいだ夕方頃から客足が増えてきました。氷を浮かべたギヤマンの水指が、見た目にとっても涼しく、水を掬う際に氷が奏でるカラコロンという音が、暑さの中でも気持ちを穏やかにしてくれました。



9月の出店では薄茶と薯蕷頭饅頭をご用意し、11月の出店では薄茶と温かい栗ぜんざいをご用意しました。10月以降、急に寒くなったため11月の出店では温かいお茶と栗ぜんざいを求める多くのお客様にお越しいただきました。

点出で提供するメニューのほか、お客様ご自身で薄茶を点てる体験型のメニューもご用意しました。お客様の半数は体験型のメニューを選ばれ、皆様とても楽しそうにお茶を点てて、笑顔でお茶を召し上がっておられるのがとても印象的で嬉しく思います。

来年も継続して出店して多くの方にお茶を味わっていただき、まだお茶を知らない方にも気軽にお茶に触れていただくことができる機会を提供していきたいと思っております。

卒業生より

萩原 豊さん

店を始めてからお茶を習い始めてその時に青年部の存在を知って入会させて頂きました。

仕事の関係もあって活動には全然参加できなかったですが、その中でもお茶会でお料理を提供させてもらったり、料理教室の講師をさせてもらったりと色々な体験をさせて頂きありがとうございました。また、年末の懇親会でお店を使ってもらったりと沢山お世話になり感謝しかありません。

皆さんにもとても優しく温かく接していただき色々勉強させていただきました。まだまだ未熟ですがこれからもお茶の世界を楽しんでいこうと思っています。

富山青年部の益々のご盛会をお祈り申し上げます。

七澤 智香子さん

この度、富山市青年部を卒業することになり月日の流れの早さを感じる今日この頃です。入会させて頂き、富山祭りの開催時期と合わせて開かれたチャリティー茶会において、お運びのお手伝いを体験したことが心に残っています。また、時の流れと共に仕事の情報や家族の状況に変化があり、お稽古する時間確保が厳しくなり、青年部の魅力ある活動に参加することができなくなりました。

後半は、ほぼ名ばかりの会員となっていました。そんな、自分に何かあるごとに、温かなお声を掛けて頂き、深く感謝しております。ありがとうございました。皆様の今後のご活躍とご多幸を心から願っております。

編集後記(広報委員長 松原)

令和5年は富山青年部の創立から60周年という節目を迎えるにあたって、広報委員長としての大きな務めは記念誌の製作でした。年初から少しずつ準備に励んできたつもりでしたが、終盤になってスケジュールがタイトになりスムーズに事が運ばない場面もありました。

しかしながら、皆様の力を借りながらなんとか無事に60周年行事を迎えることが出来ました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます、ありがとうございました。

令和5年は新しい試みとして、大手市場の出店がありました。茶道というものをたくさんの方々に触れていただき、また、会員同士の交流の場としてもとても良かった試みではないかと個人的に振り返っております。

令和6年も1つ1つの行事が新鮮なまま記憶に残せられるよう、広報委員長として役割を果たしていきます。またご指導のほどよろしく願いいたします。

令和6年1月発行



茶道裏千家淡交会 富山青年部

～富山青年部では随時会員を募集しております！！～

青年部活動に賛同していただける方なら、どなたでもご入会できます。

年会費 1,000円(26歳未満)

3,000円(26歳以上、50歳未満)

申し込み先 富山青年部公式 Gmail tankoukaitoyamaseinenbu@gmail.com

活動については、Facebookの配信も行っておりますので、ぜひ御覧ください！



Facebook